

2002 駒大サッカー部の軌跡

前期首位で折り返し！ (4～6月)

4月～6月の出来事

- リーグ戦(前期 1～7 節)
- 新人戦



リーグ戦 (1～7 節)

- 1-2 東京学芸大学 (得)中田
- 5-1 青山学院大学 (得)松田、巻2、増富、橋本
- 3-2 慶応義塾大学 (得)巻3
- 8-1 亜細亜大学 (得)中田4、深井3、小林亮
- 4-1 国士館大学 (得)巻2、赤嶺2
- 2-3 筑波大学 (得)深井、中後
- 3-0 順天堂大学 (得)橋本、深井、巻

新人戦(予選リーグ)

- 2-0 東海大学 (得)赤嶺、関
- 2-1 中央大学 (得)赤嶺、佐々木
- 2-1 慶應義塾大学 (得)宮崎、赤嶺

新人戦(決勝トーナメント)

- [準決勝] ● 2-3 順天堂大学 (得)関、中後
- [3位決定戦] ● 1-1(PK3-4) 法政大学 (得)佐々木

天王山で敗れるも 首位ターン！

「開幕前の今年の目標は2部落ち阻止だった」(巻)と言うように開幕前の駒大はいくつかの不安を抱えていた。明らかに去年より劣る戦力、ガラリと変わったディフェンスライン、その不安が開幕戦でいきなりの中してしまう。去年は5-1で勝った東学に1-2と競り負けてしまう。しかし、開幕戦を負傷欠場していたエース深井が戻ってきた

第2節、駒大攻撃陣が5-1と大爆発する！「あの試合で1年間のいい流れが出来た」(松田)と言うようにここから駒大の快進撃は始まる。続く慶應戦は苦しみながらも巻のハットトリックで辛くも勝利を挙げ首位に立つと、第4節の亜細亜戦は8-1と快勝した。

第5節の相手は昨年度のチャンピオン国士館。苦戦が予想されたが試合は思わぬ展開を見せる。巻が前半終了間際に先制点を叩き込むと新星・赤嶺の2得点などでめで終わってみれば4-1の快勝。たしかに終盤の国士の猛攻をこちらも新星のGK牧野が防いだのも大きいが駒大にとっては思いがけない大勝であった。

ここまで、4連勝と勢いにのる駒大は第6節、2位の筑波と直接対決。試合は直接対決にふさわしく白熱した展開となる。しかし、最後は地力に勝った筑波が勝利し、駒大は首位から陥落してしまう。

この敗戦で首位ターンは難しくなったと思われたが第7節で勝利し、筑波が国士と引き分けたため再び首位に返り咲いた。この時点で巻は8得点で得点ランキング1位、深井は4アシストでアシストラランキング1位であった。

新人戦 無念の4位…

6月1日～16日にかけて行われた新人戦は4位という結果に終わってしまった。予選リーグを3連勝で突破するも、決勝トーナメントの1回戦で順天に惜敗。3位決定戦にまわった駒大は法政と対戦。試合は終了間際に同点ゴールをくらい、PK戦へ突入。ここで

松村、大瀬良が外れてしまい4位という結果に。しかし、結果以上に収穫の多い大会だった。



※(写真)PK戦で敗れうなだれるイレブン。



【上】国士に勝ち喜ぶ巻(左)、増富(中央)、橋本(右)【下】1年生ながらリーグ戦6試合に出場した牧野

夏の王者に輝く！ (6～8月)

6月～8月の出来事

- 関東選手権
- 総理大臣杯

大臣杯で優勝！

昨年、決勝の地で涙を飲んだ大臣杯。その雪辱を晴らすべく関東選手権に臨んだ駒大。しかし、関東選手権で5位以内に入らな

れば大臣杯の出場すら出来ない。準々決勝で東学に負けた駒大は5位決定戦に。しかし、5位決定戦を楽々と制し昨年と同じく関東5代表として大臣杯に進む。

「5位で出たほうが大臣杯の組み合わせが楽だった」(並木・主務)という言葉の通り大臣杯では快進撃を続け暑さと戦いながらも決勝の地まで辿り着く。試合は前半2得点を取られきびしい展開になるが後半、深井のスーパーゴールで勢いづいた駒大が5得点を挙げ見事、日本一に輝いた。



【上】この一体感が大臣杯での好成績をもたらした。見事昨年の雪辱を晴らし、5年ぶり3度目の栄冠を手にした【右】深井が魅せたスーパーゴールは自身も「大学の中で1番のゴール」と言うほど鮮烈なものだった



関東選手権

- 1回戦 ○ 6-0 立教大学
- 2回戦 ○ 3-1 東海大学
- 準々決勝 ● 0-2 東京学芸大学
- 5位決定戦① ○ 5-1 亜細亜大学
- 5位決定戦② ○ 7-0 城西大学

新人戦(予選リーグ)

- 1回戦 ○ 3-0 広島大学
- 2回戦 ○ 5-1 関西学院大学
- 準決勝 ○ 2-1 高知大学
- 決勝 ○ 5-2 国士館大学